



コカ・コーラカップ2023 第30回千葉オープン女子トーナメント

10月20日~22日 / アイキューボウル

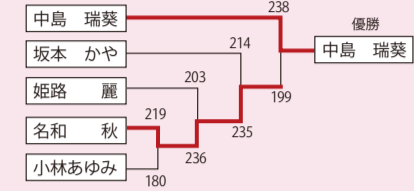
中島瑞葵が10月だけで3勝の固め打ち



▲女子プロのなかではストップ・ザ・中島がテーマになりそうほど、心身ともに充実一途の中島

今年で30回目を迎えた千葉オープンは、女子大会として10月20日から3日間、千葉県印西市のアイキューボウルを会場に、プロ124名、アマ22名が参加して行われたが、中島瑞葵(53期・小嶺シティボウル/ABS)が優勝、今季4勝目、通算7勝目を挙げた。また総合28位の渡辺莉央選手(北小金ボウル)がベストアマに輝いた。(主催:千葉日報社/千葉県ボウリング場協会 特別協賛:コカ・コーラボトラーズジャパン(株))

●決勝ステップラダー



▲「サウンドワン」JPBA決勝大会の準々決勝でも中島さんに負けているので、なんとか止められたと名和



▲アンバーサリーに続く連勝はならなかったが、巻き返しへ手応え十分の姫路

予選(8G)、準決勝(8G)の16Gトータル上位5名を決勝ステップラダーに選出する。予選をAシフト1位通過の坂本かやが準決勝も快走していたが、後半805とややペースを落とす間に、967と伸ばした中島が48ピン逆転してトップシードを獲得。3位には、18日に

第30回を記念して行われたワンデーターナメントで通算32勝目を挙げたばかりの姫路麗、そして名和秋、小林あゆみとともに2013年からタイトルから遠ざかっている二人が、4位と5位でステップラダーに滑り込んだ。



▲3冠のタイトルでも中島とし烈な争いの坂本「残りの試合は、ボールのラインナップを見直して臨みたい」

5位決定戦
ターキースタートで先行した小林だったが、4、6、7、8フレと4つのスプリット。「1回は外ミスだったけど、あとはしっかり投げた結果。あそこ(21・22L)は準決勝から難しく感じていた」と180に終わり、219とまとめた名和が勝ち上がった。

4位決定戦
ともにダブルでスタートし

たが、姫路が4フレ②⑧と割れてオープンを作る。すかさず4、5フレのダブルでリードを奪った名和が、9フレからオールウェーを決めて、236:203と退けた。「ちょおちょお以来右に向けるボウリングを練習してきた」と姫路。このところの成績にもその成果は表れていたが、1週間で2勝はならなかった。



▲「試合出場を控えて練習に専念しようかと思っていた」と、久々の優勝争いの小林

3位決定戦

ターキースタートの坂本が、4フレ以降は左レーンの攻略に苦戦する間に、名和は2フレからのフィフスで逆転。9フレは④⑥⑦と割れたが、坂本は「中に入ってスピードを抑えて投げた分、思い切りがなくてピンが飛ばなかった」と、ノーミスで214とまとめたものの、235の名和が3連勝で優勝決定戦までこぎつけた。

優勝決定戦

中島は練習ボールでボールの選択に迷っていたが、「最後の1分ぐらいで、ひらめきでエクスポネントを投げてみたら、左右のレーンでストライクだった。⑩ピンを飛ばす自信はなかったけど、これでいこうと…」、その決断が3フレからの

のフォースにつながった。2フレをビッグフォーでオープンの名和も、3フレからフォースで食い下がる。中島が7フレ⑩ピンタップで切れたため、追いつくチャンスだったが「引っ張ってしまった。今の私のいちばん悪いところが出ましたね。あそこがきてれば展開も変わっていたと思うんですけど」と悔やんだ投球は、③⑩のスプリット。238:199で制した中島は、10月だけで3勝の無双状態だ。



▲総合28位でベストアマの渡辺選手

今月の表紙

■優勝・中島瑞葵

準決勝の前半はまったくイメージがわいていなくて、なんとか5人に残ればという感じだった。後半遅くなってきて自分のラインが出始めたので、前日感じがよくなったボールに持ち替えて、それがうまくはまってくれた。決勝はだれが上がってきてても、あと1ゲームは自分がうまく投げられるかどうかだと思っていた。その意味では、ボールの選択を含め、いい投球ができました。

この1カ月は、しっかり止まって投げられるように、下半身の強化、体幹の強化に取り組んできたけど、その成果が少しずつ出てきていると思う。でも3年目で7勝はできずで、怖いぐらいです。とりあえずは10勝が目標だけど、上を見すぎると手前がおろそかになるので、優勝が見える位置にきてから始めて優勝を目指して頑張ろうと思います。
優勝ボール: 900GLOBAL エックス・ポネント



2026年アジア大会への道

Vol.8 report

山下 知且

第20回アジア競技大会は、2026年に愛知県を中心として日本で開催されます。この大会では、パリオリンピックで実施される32のスポーツのほか、アジアの5つの地域から選ばれる5つのスポーツ、2026愛知・名古屋組織委員会が提案する2つのスポーツ、そしてアジアオリンピック評議会(OCA)が提案する2つのスポーツの、合計41のスポーツが現在のところ実施予定です。アジア大会におけるボウリングは、1978年のバンコク大会からスタートし、1982年と1990年、そして直近の2023



▲2010年(中国・広州)のアジア大会では、和田翔吾選手(左)と組んだダブルス戦で銀メダルを獲得した

年(2022年から1年延期)を除き、アジア大会のスポーツとして実施されてきました。4月号でも少し触れましたが、1994年には広島で第12回アジア競技大会が開催され、ボウリング競技日本代表チームは金4、銀3、銅2の大活躍。山本浩選手

(現プロ)の男子マスターズ戦優勝は、報道番組で特集が組まれるなど、大きな注目を集めました。

2026愛知・名古屋組織委員会は、本年4月に提案する2つのスポーツについて、国内の80を超える競技団体に対し公募をかけました。われわれJBCはそれに応募し、厳しいレースのなか、最終選考の4つのスポーツまで残りました。北川会長以下担当役員、JBC事務局がアジアボウリング連盟(ABF)と連携し、ABFヴィヴィアン・ラウ終身名誉会長(香港)も参加していただいた6月の最終選考プレゼンテーションは素晴らしい出来で、組織委にも高く評価され、他の競技にまったく引けを取らないものですが、残念ながら

ら東京五輪で採用された「野球・ソフトボール」「空手」が選ばれました。

その後もOCA提案の2つのスポーツに入れるようさまざな働きかけをしてきましたが、「Eスポーツ」と「スカッシュ」が選ばれました。IBF会長のスキャンダルが少なからず影響していることは否めません。スカッシュはその後パリ五輪にも採用されたので、大きな流れがあったのでしょうか。しかしながらアジア大会では、これまで開催直前に追加スポーツが入った例もあり、可能性はあります。アジアの地域全体にボウリングを追加しようというムーブメントを起こさなければなりません。われわれは多方面への働きかけを全力で続けていきます。

2030年ドーハ、2036年サウジアラビアでは、ボウリングはほぼ間違いなく種目に入



▲ABFのヴィヴィアン・ラウ終身名誉会長にも、6月の最終選考プレゼンテーションでは全面協力をいただいたが...

るでしょう。2026年愛知・名古屋の舞台上でボウリングの選手たちが躍動できるように頑張りたいと思います。



やましたともかつ
1982年12月5日生まれ、長崎県出身。
2000年~2011年ナショナルチーム在籍。2023年6月から長崎県スポーツ協会理事。全日本ボウリング協会理事。2023年4月から長崎県連副理事長。2022年からIBFアスリート委員。